

逐條土地收用法資料 (一八)

高坂孝三

第五十三條 土地ヲ收用又ハ使用スルニ因リテ通路、溝渠、

塙柵其ノ他ノ工作物ノ新築、改築、増築又ハ修繕ヲ爲ス
必要ヲ生スルトキハ其ノ費用ヲ補償スヘシ

一、一部收用ト工作費ノ補償

(一) (大審 同 大正十五年(オ)第一六九號
十五年五月十七日言渡)

(要旨) 土地收用法ニ依リ田用水溜池ノ一部ヲ收用セラレ
タル者カ其ノ補償トシテ收用地ノ價格築堤ノ費用及灌漑ノ
不足ニ因ル損失ヲ填補スヘキ金錢ヲ取得シタルトキハ水量
ヲ原狀ニ復セシムル爲新ナル溜池ヲ築造スヘキ費用ヲ請求
スルコトヲ得サルモノトス

(判決理由)

土地收用法ニ依リ土地ヲ收用シタル場合ニ於テ被
收用者ニ補償金ヲ與フルハ被收用者ヲシテ公益ノ必要上財産ノ
損失ニ依ル特別ノ犧牲ヲ拂ハシメタル爲負擔ノ均衡ヲ得セシム
ル目的ヲ以テ金錢ニ依リ其ノ損失ヲ填補セムトスルニ在ルモノ
ナレハ被收用者カ收用土地ニ對スル財産上ノ損失ヲ填補スヘキ
金ヲ得タルトキハ補償ノ規定ヲ設ケタル法律ノ目的ハ既ニ達セ
ラレタルモノト謂フヘク從テ被收用者ハ更ニ其ノ財産ヲ原狀ニ
回復スルカ爲ニ要スル費用ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得サルモノ
トス本件ニ於テ上告人ハ其ノ所有ニ係ル兵庫縣武庫郡大社村森
具字下ノ臺第一九一番溜池ノ内五畝ニ步ヲ被上告會社ノ電氣鐵
道敷設ノ爲其ノ他ノ土地ト共ニ收用セラレ收用審査會ノ裁決ニ
依リ其ノ補償金ヲ一坪金三圓ノ割合ヲ以テ四百五十六圓ト定メ
タルコトハ當事者間爭ナキ所ニシテ原院ハ右ノ外更ニ溜池ノ貯

水量減少ノ結果上告人所有ノ田地ニ灌溉スヘキ水量ニ不足ヲ生シ金四百八十八圓ノ損失ヲ被リタル事實ヲ認メ尙溜池殘部ニ付築塊ヲ爲スヘキ費用トシテ金二百三十八圓ヲ要スルモノト認メ此等ノ金額ヲ上告人ニ補償スヘキモノト判斷シタリ而シテ原判決ニ掲クル證據ニ依レハ此ノ認定ヲ爲シ得サルニアラサルヲ以テ之ヲ不法ト爲スヲ得ス然ラハ上告人ハ如上ノ金額ニ依リ溜池ノ一部收用ニ對スル損失ノ補償ヲ得タルモノト謂フヘク右ノ外尙貯水量ヲ收用前ノ原狀ニ回復スル爲新ナル溜池ヲ築造スヘキ費用トシテ築造地ノ代金並工事費ノ補償ヲ請求スルコトヲ得サルモノトス

(二) (行裁 大正九年第二二四號 同十一年二月二日宣告)

(要旨) 收用地ニ在ル墻塀及溝渠ノ移轉料ヲ補償スヘキモノト判決シタル以上之等新設ノ費用ノ補償ヲ請求スルヲ得

(判決理由) 原告ハ收用地ト殘地トノ境界ニ新ニ墻塀ヲ設ケ且溝渠ヲ新設スルノ必要アリトシ之カ費用ノ補償ヲ請求スルモ甲第九號證及檢證圖書ニ依レハ收用地上ニ在ル墻塀及溝渠ハ之ヲ殘地ニ移スモノト認ムルヲ相當トスルカ故ニ被告カ收用地上ニ在ル墻塀及溝渠ノ移轉料ヲ補償スヘキモノト判決シタル以上原

告ノ請求ハ理由ナシ

二、工作物ノ提供ト工作費ノ補償

(行裁 大正二年第一六九號 同三年五月六日宣告)

(要旨) 土地收用法第五十三條ニ依レハ土地收用ニ因リ通路開設ノ必要ヲ生シタルトキハ起業者ハ其ノ費用ヲ補償スヘキモノニシテ自ら通路ヲ開設シテ提供スルノ設計アリトスルモノ被收用者ノ承諾ナキ限り補償義務ヲ免ルルコトヲ得サルモノトス

(判決理由) 本件ノ争點ハ起業者ニ於テ現在ノ通路ト同一又ハ一層便利ナル通路ヲ開設スルノ設計アルトキハ通路開設費ヲ補償セシムヘキモノニ非サルヤ否ヤニ在リ依テ按スルニ土地收用法第五十三條ハ土地收用ニ依リ通路開設ノ必要ヲ生シタルトキハ起業者ハ其ノ費用ヲ補償スヘキ旨ヲ規定スルノミニシテ起業者自ら通路ヲ開設シテ補償義務ヲ免ル、コトヲ認メサルカ故ニ起業者ハ假令現在ノ通路ニ優ル通路ヲ開設シ原告ノ使用ニ供スル設計アリトスルモ原告ノ承諾ナキ限りハ補償義務ヲ免ル、コトヲ得サルモノトス從テ通路ハ起業者ニ於テ現在ノ通路ト稍同一ノ勾配ヲ保チ新ニ開鑿スルノ設計ニ付別ニ開設費ノ補償ヲ爲

ス必要ナキモノト認メタル原判決ハ失當ナリ被告ハ至極便利ナル新道路アルニ拘ラス更ニ之ニ並行シテ副路ヲ新設スルハ不經濟ナリ法律ハ無用ナル不經濟ヲ強ユルモノニ非サルカ故ニ本件ノ如キ場合ニ於テハ補償セシムヘキモノニ非スト主張スト雖參加會社カ別ニ道路ヲ設クルト否トハ其ノ任意ニ屬スルヲ以テ被告主張ハ理由ナシ被告及從參加人ハ原告ハ工事中道路遮斷ノ爲ニ生スル損失ノ補償ヲ得ンカ爲道路開設費ノ補償ヲ請求スルハ失當ナリト主張スト雖原告ノ請求スル所ハ道路開設費ニシテ工事中道路遮斷ニ因リテ生スル損失ノ補償ニ非サルコトハ原告カ原審査會ニ提出シタル意見書訴狀及當裁判所ニ於ケル陳述ニ徴シ明瞭ナレハ被告及從參加人ノ主張ハ理由ナシ又從參加人ハ起業者ノ道路開鑿ハ明治四十二年福岡縣令第九號第十一條ニ基キ之ヲ爲ササルヲ得サルモノニシテ其ノ結果原告ハ損害ヲ受ケサルモノナルカ故ニ原告自ラ之ヲ開鑿スル費用ノ補償ヲ請求スルコトヲ得スト主張スト雖該縣令ノ規定ハ土地收用ノ結果私有地内ニ設ケタル私人専用ノ道路ヲ破壊スル場合ニ適用スヘキモノニ非サルヲ以テ從參加人ノ主張ハ之ヲ採用スルヲ得ス

三、道路設置費ノ補償

(一) (行裁) 大正六年 第四號
同六年十二月二十六日宣告

(要旨) 宅地ニ通スル道路ノ一部收用ニ因リテ廢絶シタル場合ニ於テ其ノ道路カ邸宅ノ利用ニ必要ナリト認ムヘキ以上土地收用法第五十三條ニ依リ起業者ハ前示廢絶ノ部分ニ付收用當時ニ於ケル程度ノ道路ヲ設クルカ爲必要ナル費用ヲ補償スヘキモノトス

(判決理由) 被告ハ本件土地ニ對スル東口道路ハ住宅ヘノ道路トシテハ不完全ノ觀ナキニ非サルモ完全ナル道路ノ必要ナク從來ノ道路亦不完全ナルモノナリシカ故ニ之ニ對シテ補償ヲ要スルモノニ非スト主張スルモ檢證調査ニ依レハ東口道路ハ收用當時ハ四尺乃至四尺五寸ノ道路ナリシニ收用後用地内ニ屬スル部分ハ廢絶セラレタルモノト認ムヘク而モ檢證圖ニ依レハ東口道路亦本件原告所有ノ邸宅ヲ利用スルカ爲必要アルモノト認ムヘキカ故ニ土地收用法第五十三條ニ依リ起業者ハ前示廢絶ノ部分ニ付收用當時ニ於ケル程度ノ道路ヲ設クルカ爲必要ナル費用ヲ原告ニ補償スヘキモノトス

(二) (行裁) 昭和六年 第二一九號
同七年十二月二十七日宣告

(要旨) 收用ニ因リ通常ノ事情ノ下ニ必要ヲ生シタルニ非サル道路ノ設置費用ハ之ヲ補償スルヲ要セサルモノトス

(判決理由) 本件収用ノ南北兩側殘地内ノ道路ハ原告ノ主張ニ依ルモ證人本田林八ノ「(前略)」要ハ殘地ノ使用方法如何ニ依ルモノデアル該殘地ヲ一團ノ土地トシテ使用スルニハ一モ道路ヲ設クル必要ナキモ中略三四個ノ家ヲ建テルトスレハ道路ヲ設ケル必要ナキモ(中略)三四個ノ家ヲ建テルトスレハ道路ヲ設ケル必要アリ(下略)トノ供述竝ニ甲第十號證(市街地建築物法施行規則案内)ノ各記載ニ徴スルモ右殘地ヲ住宅地商店地ノ如キ特定ノ用法ニ供スル場合ニ限り之ヲ設置スルノ必要アルニ過キササルモノナルカ故ニ本件収用ニ因リ通常ノ事情ノ下ニ必要ヲ生シタルモノト謂フコトヲ得ス從テ之ヲ設置スルノ費用ハ之ヲ補償スルヲ要セサルモノトス

四、塙柵設置費ノ補償

(一) (行裁 大正二年第二七號
同八年五月三十日宣告)

(要旨) 土地収用ニ因リテ生シタル殘地ニ他ノ侵入ヲ防止スル爲メ収用地域トノ間ニ塙柵ヲ設クル必要アルトキハ起業者ハ其ノ費用ヲ補償スヘキモノトス

(判決理由) 按スルニ同所九百三番地乃至九百六番地ハ檢證圖書ノ附屬圖ニ依レハ順次連續セル土地ニシテ電車軌道トシテ收

用セル地域ハ右各筆ノ土地ヲ東西ニ貫通シ其ノ殘地ハ南方及北方ノ兩側ニ在リ而シテ此等殘地ノ實況ハ宅地竝樹木ノ植付アル場所及之ニ連續セル畑地ナルコトハ檢證圖書ニ其ノ旨記載アルニ依リ明ニシテ此ノ如キ狀態ニ在ル本件殘地ニハ他ノ侵入ヲ防止スル爲メ収用地域トノ間延長百二十間ニ塙柵ヲ設クル必要アルモノニシテ其ノ必要ハ土地収用法第五十三條ニ所謂土地ヲ収用スルニ因リテ生シタルモノナルヲ以テ起業者ハ其ノ費用ハ補償ヲ爲スヘキハ當然ナリ從テ此ノ點ニ於ケル原告ノ請求ハ正當ニシテ被告カ之ヲ排斥シタルハ違法ナリトス

(二) (行裁 昭和六年第二一九號
同七年十二月二十七日宣告)

(要旨) 人家商店櫛比シ街路四通交通便利ニシテ隣接土地ト格段ノ高低ノ差ナキ狀態ニ在ル殘地ニハ他ヨリノ侵入ヲ防止スル爲メ収用地トノ間ニ塙柵ヲ設置スルノ必要アルモノニシテ起業者ハ其ノ費用ヲ補償スヘキモノトス

(判決理由) 本件ノ収用地カ元工場ノ敷地タリシ一面ノ平地ヲ帶狀ニ貫通シタルモノニシテ從テ右収用地ト其ノ殘地トハ格段ナル高低ノ差ナキコトハ當事者間ニ爭ナキ所ニ係リ第一回檢證圖書ノ記載ニ依レハ係争地附近ハ大體ニ於テ人家商店櫛比シ街

路四通シ交通便利ニシテ係争地ト其ノ隣接土地トハ格段ナル高低ノ差ナキモノナルカ故ニ斯カル狀態ニ在ル殘地ニハ他ヨリノ侵入ヲ防止スル爲メ收用地トノ間ニ塙柵ヲ設置スルノ必要アリト認ムヘク從テ本件收用地ノ南北兩側合計延長七十三間餘ニ沿ヒ塙柵ヲ設置スルノ費用ハ之ヲ補償スヘキモノトス

五、用惡水路開渠等設置費ノ補償

(行裁 明治四十三年第二四〇號 同四十二年十一月二十一日宣告)

(要旨) 土地ヲ收用シタルニ因リ用惡水路開渠ノ新設ヲ爲ス必要アル場合ニ於テ其ノ費用ノ補償ヲ裁決セサルハ違法ナリ而シテ右工事ヲ起業者ニ於テ施行スル場合ニ於テハ右費用ヲ補償スヘキ限ニ在ラス

(判決理由) 用惡水路及開渠新設ノ要否ニ付審察スルニ用惡水路ニ付テハ其成立ニ争ナキ甲第二號證ニ依レハ隣接地ニ於テハ軌道兩側ニ之ヲ設置スルモノナルコトヲ認メ得ヘキニ依リ原告所有地ニ關シテモ其必要アリト認ムヘク又開渠新設ニ付テモ原告所有地ノ形狀上軌道敷ヲ横斷シ排水路ヲ設置スルノ要アリト認ムヘキノミナラス被告ニ於テモ當裁判所ニ於テ軌道工事設計ニ於テハ軌道敷ニ土管ヲ設置スルモノナリト辯明シ軌道敷ニ横

斷セラルル原告所有地南方ノ一部ヨリ北方ノ一部ニ排水路ヲ設クルノ必要ヲ認ムルモノナルモ果シテ軌道カ原告所有地ヲ横斷スル場所ニ之ヲ設置スルヤ否ヤ明瞭ナラサルモノトス前記ノ如ク用惡水路及開渠設置ノ必要アリト認ムヘキニ拘ラス被告ニ於テ其ノ費用ノ補償ヲ裁決セサルハ土地收用法第五十三條ニ違背スル裁決ナリトス而シテ右等ノ工事ヲ起業者ニ於テ施行スル場合ニ於テハ右費用ヲ補償スヘキ限ニ在ラサルハ説明ヲ要セサル所ト認ム

証 前出二、參照

六、家屋改築費ノ補償

(行裁 明治三十五年第三六八號 同三十六年十月二十三日宣告)

(要旨) 一棟ノ家屋ヲ壁一重ヲ以テ二戸ニ區分シタル中ノ一戸ヲ土地ノ收用ニ因リ切取移轉モシムルニ於テハ殘家屋ニ對シ屋根其ノ他ノ改修ヲ爲スノ必要アルモノニシテ土地收用法第五十三條ニ依リ其ノ費用ヲ補償スヘキモノトス

(判決理由) 被告ハ木造瓦葺家一棟ノ内一部分ヲ補償シテ殘一部分ヲ補償セサルハ元來該家屋ハ一棟ヲ二戸ニ區劃シ其ノ構造上一戸分ヲ切取移轉スルモ殘一戸分ハ其ノ儘住宅ニ供シ得ルカ

故ナリト云フモ右家屋ハ一棟ノ構造ニシテ壁一重ヲ以テ二戸ニ區分シタルモノナレハ其ノ一戸ヲ切取移轉セシムルニ於テハ殘家屋ニ對シ屋根其ノ他ノ改修ヲ爲スノ必要アルハ實地ノ形狀ニ照シ明白ノ事實ナリトス然レハ此ノ點ニ關スル被告ノ裁決ハ土地收用法第五十三條ニ背キタルモノトス

七、鹽田ノ潮水疏通設備費ノ補償

(行裁) 大正十四年第四八號
昭和二年四月十六日宣告

(要旨) 鹽田ノ一部ヲ道路敷トシテ收用シタル場合ニ於テ道路新設ニ因リテ鹽田作業上潮水疏通ノ設備ヲ必要トセハ之ニ要スル費用ハ起業者ノ補償スヘキモノナルコトハ土地收用法第五十三條ニ依リ明ナリ

(判決理由) 被告ハ起業者カ道路ノ兩側ニ設クル溝ハ道路ノ區域内ニ其ノ附屬物トシテ施設スルモノナルヲ以テ潮水疎通ノ爲ニ幅員狹シトスルモ原告ノ權利ヲ害スルモノニ非スト云フモ道路ノ新設ニ因リテ鹽田作業上潮水疎通ノ設備ヲ必要トセハ之ニ要スル費用ハ起業者ノ補償スヘキモノナルコトハ土地收用法第五十三條ニ依リ明ナリ而シテ鑑定人橋本昇次郎ノ鑑定書中「單ニ從來ノ鹽田ヲ一尺幅ニ掘下ケタル溝ニテハ埋没シ易ク通水不

良トナル俱アルヲ以テ幅二尺乃至二尺五寸深サ一尺トスルノ必要アリ然レトモ右ノ如ク溝ノ幅ヲ増ストキハ鹽田面ヲ縮少シ延イテ鹽ノ生産力ヲ減少スルノミナラス鹽田ハ細砂ヲ以テ構成セラレアルカ故ニ漸次埋没シ年々數回之レカ浚渫及浚渫土ノ取捨ニ相當ノ勞銀ヲ要スルモノナルヲ以テ將來此ノ出資(道路新設ノ爲ニ設ケタル溝ナルカ故ニ)ヲ無カラシムルカ爲メ幅一尺深サ一尺トシ鹽田側ハ徑五寸以下ノ雜石(海水ノ滲透ヲ妨ケサル様)築キト爲スヲ最モ完全適當ナルモノト認ム(記載ニ依レハ起業者カ道路ノ附屬物トシテ設クル側溝ノ工法ニテハ鹽田ノ荒廢ヲ防クニ足ラス鹽田側ヘハ徑五寸以下ノ雜石築キト爲スヲ要スルモノト認ムヘキカ故ニ右施設ニ要スル費用ハ土地收用法第五十三條ニ依リ起業者ニ於テ補償スヘキモノト云ハサルヘカラス從テ被告カ之ニ對スル原告ノ請求ヲ排斥シタルハ不當ナリ

八、工作物施設ノ要否ノ認定資料

(行裁) 大正十四年第四八號
昭和二年四月十六日宣告

(要旨) 鹽田ノ一部ヲ道路敷トシテ收用シタル場合ニ於テ其ノ殘地ノ通水設備ノ要否ハ收用審査會ニ提出セラレタル專業計畫書ノ設計ニ依リ之ヲ決スヘキモノニシテ起業者ノ

任意ニ作成シタル設計ニ依リ決スヘキモノニ非ス

(判決理由) 道路兩側ノ殘地鹽田間ノ通水ノ爲ニ道路下ニ通水溝十一本及寬四本ヲ設クル必要アルコトハ當事者間爭ナキ所ナリ而シテ被告ノ裁決起業者ノ作成シタル水抜構造說明記載ノ設計ニ依レハ通水上何等不備ノ點ヲ認ム難ク而モ之等通水溝ノ工事ハ道路法第二十五條ニ依リ道路管理者タル起業者ニ於テ道路工事ト共ニ自ラ執行スルコトヲ得ルモノナルカ故ニ原告ニ於テ之等ノ工事ヲ執行スルノ要ナク從テ被告カ右通水溝新設ニ因ル費用ニ對スル原告ノ請求ヲ排斥シタルハ不當ニ非スト云フモ原告主張ノ如キ通水設備ノ要否ハ收用審査會ニ提出セラレタル事業計畫書記載ノ設計ニ依リ之ヲ決スヘキモノニシテ裁決後被告若ハ起業者カ任意ニ作成シタル設計ニ依リ決スヘキモノニ非ス而シテ鑑定人橋本昇次郎ノ鑑定書中「鹽田溝渠ハ常ニ通水緩漫ニシテ泥土沈滯シ易ク現ニ十一月三日實地檢證ノ際ニモ土管內ニ於テハ二寸五分内外普通溝渠ハ約四寸ノ泥土沈積シ居ルヲ實見セル狀況ナルヲ以テ將來少クとも四寸程度ノ土砂沈積ヲ認メ得ヘク然ルトキハ八寸ノ土管ニ於テハ下半部埋沒セラレ通水口ハ下半部ニ止マルカ故ニ半分ノ能力ヲ有セサルニ至ルヘキヲ以テ少クとも徑一尺以上ノ土管ヲ必要トス殊ニ鹽田作業ニ於テ海水汲上ケテ行フ溝渠ニ對シテハ一尺三寸土管ヲ要スルモノト認

ムレノ記載ニ依レハ本件起業者ノ通水設備ハ不十分ニシテ通水溝ハ徑一尺以上海水汲上ヲ行フ溝渠ハ徑一尺三寸以上ノ土管ヲ要スルモノト認ムヘク又鑑定人橋本昇次郎ノ鑑定書中「道路下ノ鹹水輸送裝置ハ徑七寸土管ヲ設備セハ適當ナリト認ム」ニ依レハ事業計畫書記載ノ設備以外徑七寸ノ寬四本ヲ新設スルコトヲ要スルモノト認ムヘキカ故ニ被告カ原告ニ於テ之等ノ設備ヲ爲スノ要ナシトシテ其ノ費用ノ補償請求ヲ排斥シタルハ不當ナリ

第五十四條 前數條ニ規定シタルモノノ外土地ヲ收用又ハ

使用スルニ因リテ土地所有者及關係人ノ通常受クヘキ損失ハ之ヲ補償スヘシ

一、通常受クヘキ損失ノ意義

(一) (行裁) 大正二年第一六九號
同三年五月六日宣告

(要旨) 通常受クヘキ損失ナリヤ否ヤハ其ノ損失カ收用ノ爲通常ノ場合ニ於テ生スヘキ性質ノモノナリヤ否ヤニ依リ決スヘキモノニシテ土地所有者カ其ノ土地ヲ利用スルノ方法カ通常ナリヤ否ヤニ依リ決スヘキモノニ非ス

(判決理由) 從參加人へ原告カ土地所有者トシテ鑛業ヲ爲スカ如キハ特種ノ事情ナレハ土地ノ收用ニ因リ鑛業上被ルヘキ損失

ハ決シテ之ヲ通常受クヘキ損失ト云フコトヲ得スト主張スト雖通常受クヘキ損失ナリヤ否ヤハ其ノ損失カ收用ノ爲通常ノ場合

ニ於テ生スヘキ性質ノモノナリヤ否ヤニ依リ決スヘキモノニシテ土地所有者カ其ノ土地ヲ利用スル方法ノ通常ナリヤ特殊ナリヤニ依リ決スヘキモノニ非ス故ニ本件ノ如ク土地所有者カ鑛業ヲ經營シ鑛滓棄場トシテ現ニ其ノ土地ヲ利用シ得ル場合ニ於テ收用ノ結果當然之ヲ利用スルノ利益ヲ失フモノハ之ヲ收用ニ因リ通常受クヘキ損失ト云ハサルヘカラス

(二) (行裁) 大正十二年第一九一號
同十三年二月二十八日宣告

(要旨) 土地收用法第五十四條ニ所謂通常受クヘキ損失トハ通常ノ事情ニ基ク損失ヲ云フモノニシテ特別ノ事情ニ基ク損失ハ同條ニ依リ補償スヘキ限ニ在ラス

(判決理由) 按スルニ前記ノ各損失ハ一ハ原告カ主張スルカ如キ事情ノ爲高價ヲ以テ買収シタル費用ニ屬シ又一ハ將來所謂石山ヨリ石材ヲ得ントスル期待利益ニシテ何レモ特別ノ事情ニ基ク損失ナルコト論ヲ俟タス而シテ土地收用法第五十四條ニ所謂通常受クヘキ損失トハ通常ノ事情ニ基ク損失ヲ謂フモノナルコト

ト極メテ明白ナレハ前記ノ如キ特別ノ事情ニ基ク損失ハ同條ニ依リ之ヲ補償スヘキ限ニ在ラス

二、營業上ノ損失ノ補償

(一) (行裁) 明治三十九年第七七號
同四十年七月四日宣告

(要旨) 水車業ヲ經營スル者カ營業地ヲ收用セラレ營業權ヲ喪失シタル場合ニ於テハ起業者ハ土地收用法第五十四條ニ依リ其ノ損失ヲ補償セサルヘカラス

(判決理由) 明治三十年十二月東京府令第百二十五號水車業規則第一條ニ「水車業ヲ經營セムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ願出免許ヲ受クヘシ一、水車及其附屬設備及其地目云々」第三條ニ「既ニ免許ヲ受ケタル者ニシテ第一條若クハ第二條ノ事項ヲ變更セントスルトキハ更ニ其手續ヲ爲スヘシ」トアリ既ニ水車營業ノ免許ヲ受ケタル者ト雖モ水車ノ位置ヲ變更セムトスルトキハ更ニ願出免許ヲ受クヘキモノナレハ本件ニ於テ營業地カ收用セラルトキハ原告ノ營業免許ノ消滅スルモノナルハ明ニシテ原告ハ之カ爲損失ヲ受クル者ナルヲ認メ得ヘシ既ニ原告ニシテ營業權ヲ喪失シ且之カ爲メ損失ヲ受クル者タル以上被告ハ土地收用法第五十四條ニ依リ原告ノ營業權喪失ニ依リ損失ヲ補償セ

サルヘカラス

(二) (行裁) 明治四十二年第二〇七號
同四十三年一月二十一日宣告

(要旨) 皮革製造業者カ當該行政廳ノ許可ヲ受ケ建設シタル化製場ノ敷地ヲ收用セラレ其ノ移轉ヲ要スルトキハ該建設許可ハ消滅ニ歸シ之ト同時ニ其ノ營業權ヲモ失フモノナルヲ以テ收用審査會カ之ニ對シ單ニ營業休止ノ損失補償ヲ裁決シタルハ違法ナリ

(判決理由) 原告カ許可ヲ得建設セル化製場ノ敷地ヲ收用セラレ其移轉ヲ要スルトキハ建設許可ハ消滅スルヲ以テ原告ハ更ニ建設ノ許可ヲ得ルニ至ルノ間ハ適法ニ其業ヲ營ムヲ得サルモノナレハ建設許可消滅ト同時ニ營業權ヲモ喪失スルモノト云ハサルヘカラス然ルニ被告ニ於テ原告ハ單ニ六箇月ノ營業休止ヲ要スルモノト爲セシハ蓋シ當初原告自身ニ於テモ六ヶ月ノ休業ヲ要スルモノトナシ土地收用法第二十五條ニ依ル意見書ヲ提出セシキタルモノナルヘキモ前記ノ如ク原告ハ其所有地ヲ收用セラルルカ爲化製場建設ノ許可ヲ失ヒ從テ營業權ヲ喪失スルモノナルニ之ニ對シ單ニ營業休止ノ補償ヲ裁決セシハ土地收用法第五十四條ノ適用ヲ誤リタルモノト謂ハサルヘカラス

註、前出第四十八條資料ニ參照

(三) (行裁) 明治四十年第三二號
同四十一年三月七日宣告

(要旨) 相接続セル一團ノ土地ノ所有者カ其ノ土地ノ一部ニ水池ヲ設置シ製水業ヲ營ム場合ニ於テ鐵道工事ノ爲メ該土地ノ他ノ一部收用セラレ線路敷地トシテ掘鑿セラレタル結果水池ノ水源杜絶シテ廢滅ニ歸シタルトキハ所有者ハ土地收用法第五十四條ニ依リ水池ニ對スル損失ノ補償ヲ請求シ得ルモノトス

(判決理由) 被告竝ニ從參加人ハ原告カ將來製水業ヲ營ム能ハサルハ鐵道工事ノ爲其水源ヲ杜絶セララルルニ由ルモノナルモ其水源ハ原告所有地以外ニ在リタルモノニシテ該地ニ對シ原告ハ何等ノ權利ヲ有スルモノニアラサレハ該地處分ノ際水源杜絶シタル爲水池廢滅ニ歸スルモ是ヲ以テ千二百八十四番地ノ一部收用ノ爲生シタル損失ト云フヲ得サルハ勿論收用地ト水池所在地トハ同一地ニアラサレハ原告カ土地收用法第五十四條ニ依リ損失補償ヲ求ムルハ毫モ理由ナシト云フモ實地ヲ臨檢スル所ニ依レハ水池所在ノ千三百十三番地千三百十四番地ト千二百八十四番地トハ相接続シ兩地相候テ從來原告ノ水製造ノ用ヲナセルモ

ノナレハ地番ヲ異ニスルモ之ヲ一團ノ地ト認ムルヲ相當トシ又
鐵道工事實地ノ狀況ハ千二百八十四番地ノ一部收用セラレ線路
敷地下シテ掘鑿セラレ爲ニ水池ノ水源ヲ杜絶シ其結果水池ヲ廢
減ニ歸セシムルモノナレハ鐵道工事ハ收用ノ原因タルト共ニ水
池廢滅ノ原因ヲ爲シ而カモ工事ト收用トハ相離スヘカラサルモ
ノナレハ水池ノ廢滅ハ收用ノ結果ト認ムヘキニ依リ原告ハ土地
收用法第五十四條ニ依リ水池ニ對スル損失ノ補償ヲ求ムルコト
ヲ得ヘキモノト云ハサルヲ得ス

(四) (行裁) 大正三年第九五―九七號
同三年十二月二十三日宣告

(要旨) 收用地ニ在ル建物ノ移轉ニ伴フ營業休止ニ因ル損
失ハ土地收用法第五十四條ノ通常受クヘキ損失ニ該當ス

(判決理由) 地上物件ノ移轉ニ伴フ營業休止ニ因ル損失ノ補償
ニ付テハ原告中村太助正木眞吉ハ事實損失ヲ受クルコトハ特殊
ノ事情ナレハ營業者トシテ受クル損失ハ特殊ノ事情ニ基クモノ
ニシテ土地收用法第五十四條ニ依リ補償スヘキモノニ非スト主
張スト雖地上物件タル建物カ現ニ營業ノ爲利用セラレ居ル以上
ハ何人カ其營業者タルヲ問ハス營業休止ニ因リ損失ヲ受クヘキ
モノナルヲ以テ原告等ノ受クル損失ハ土地收用法第五十四條ノ
通常受クヘキ損失ニ該當シ補償セラルヘキモノトス

(要旨) 收用ノ結果地上物件移轉ニ伴ヒ營業休止ヲ要スル
トキハ之ニ因ル損失ハ起業者ニ於テ補償スヘキモノトス而
シテ職工ノ休業ニ因ル損失ハ當然營業休止ニ因ル損失中ニ
包含ス

(五) (行裁) 大正九年第二二四號
同十一年二月二十二日宣告

(判決理由) 本件收用ノ結果一時營業ノ休止ヲ要スルニ因リ之
カ損失ヲ補償スヘキモノナリトノ原告ノ請求ニ對シ被告ハ營業
休止ノ必要ナシトシ原告ノ請求ヲ排斥シタルモ本件收用ノ結果
原告住宅ノ外從來形附作業ノ用ニ供セラレタル建物及物件ノ移
轉ヲ要スルコト前ニ説明セル如クナルヲ以テ原告ハ右移轉改築
ニ要スル相當ノ期間形付作業ノ休止ヲ要スルハ勿論形附品ニ對
シテ行フヘキ染色作業亦延イテ休止ヲ要スルモノト認ムルヲ相
當トス從テ原告ノ營業休止ニ因ル損失ハ起業者ニ於テ之ヲ補償
スヘキモノニシテ被告カ此ノ點ニ關スル原告ノ請求ヲ排斥シタ
ルハ失當ナリ而シテ原告ハ職工ノ休止ニ因ル損失ノ補償ヲ特ニ
請求スルモ此ノ如キモノハ若シ之有リトスレハ當然營業休止ニ
因ル損失中ニ包含セラルヘキモノニシテ特ニ請求スヘキモノニ
非サルカ故ニ此點ニ關スル原告ノ申立ハ採用セス

(六) (行裁) 明治三十五年第三六八號
同三十六年十二月二十三日宣告

(要旨) 數多ノ職工ヲ使用スル營業工場ヲ他ニ移轉セシムルニ當リテハ若干ノ日時休業スルト同時ニ職工モ亦休止セシムヘキハ免カレサル所ナルヲ以テ收用審査會カ之ヲ否認シタルハ土地收用法第五十四條ニ違背スルモノトス

(判決理由) 原告成田増吉ノ要求中被告ハ營業休止中ノ損害ヲ認メスト主張スルモ現ニ數多ノ職工ヲ使用シテ營業シツツアルコトハ被告モ争ハサル所ニシテ其營業工場ヲ他ニ移轉セシムルニ付テハ若干ノ日時ハ休業スルト同時ニ職工モ亦休止セシムヘキハ事實上免レサル所ナルヲ以テ之ヲ否認シタルハ土地收用法第五十四條ニ違背スルモノトス

(七) (行裁) 大正十四年第四八號
昭和二年四月十六日宣告

(要旨) 鹽田ノ一部收用ノ場合鹽壺排列變ヘノ爲ニ採鹽業ノ休止ヲ要スルトキハ之ニ因リ製鹽業者ノ受クル損失ハ土地收用法第五十四條ニ所謂通常受クヘキ損失ニ外ナラス

(判決理由) 被告ハ採鹽業休止ニ因ル損失補償ノ裁決ヲ爲ササルハ違法ニ非サル旨主張スルモ鑑定人橋本昇次郎ノ鑑定書中

「從テ之カ變更整理ノ爲メ一部休止ノ已ムナキモノアルヘキモ改築ハ採鹽不能時又ハ採鹽可能ノ場合ニ於テモ數個ノ沼井宛順次改築シ得ラルルヲ以テ全鹽田ノ作業ヲ休止スルカ如キコトナカルヘシト認ム右片臺二十個分ノ變更改築ニ要スル日數ハ従事人員ノ多少ニ依リ相違アルモ普通一臺一日二人ヲ要スルモノナルヲ以テ本鹽田ハ男六人ノ定員ナルカ故ニ約七日ヲ要スルモノト認ム」ノ記載ニ徴シ全鹽田ノ作業ヲ休止スルノ要ナキモ片臺二十個ノ排列變ヘノ爲ニ約七日間其ノ鹽壺ノ作業ヲ休止スルヲ要スルモノト認ムルヲ相當トス而シテ原告カ右作業休止ノ爲ニ受クル損失ハ土地收用法第五十四條ニ所謂通常受クヘキ損失ニ外ナラサルヲ以テ被告カ之ニ對スル原告ノ補償請求ヲ排斥シタルハ不當ナリ

(八) (行裁) 大正二年第一六九號
同三年五月六日宣告

(要旨) 鑛滓棄場ハ鑛業經營上最モ重大ナル利害關係ヲ有スルモノナルヲ以テ土地收用ニ因リ坑口下ノ極メテ便利ナル鑛滓棄場ヲ減縮セラルルコトハ即チ土地所有者トシテ鑛業經營ノ爲之ヲ利用スル利益ヲ失ヒ損失ヲ受クルコト明ナレハ起業者ハ其ノ損失ヲ補償スヘキモノトス

(判決理由) 原告ハ從來古宮嶺山ヲ經營シ第二坑口及第三坑口ヨリ其ノ下方ノ斜面地ニ鑛滓ヲ排除シ來リタルニ坑口ト縣道ノ殆ト中央ヨリ縣道ノ上方僅ニ數間ノ所ニ至ル中間一帯ノ地ヲ鐵道用地トシテ收用セラレ從來鑛滓棄場トシテ使用シ來リタル斜面地ノ下方半ヲ失フコトハ當事者間爭ナキ事實ナリ而シテ鑛滓棄場ハ鑛業經營上最モ重大ナル利害關係ヲ有スルモノナルヲ以テ坑口下ノ極メテ便利ナル鑛滓棄場ヲ減縮セラルルコトハ即チ土地所有者トシテ鑛業經營ノ爲之ヲ利用スルノ利益ヲ失フモノナレハ原告ハ收用ニ因リ損害ヲ受クルモノト謂ハサルヘカラス既ニ收用ニ因リ損害ヲ受クルコト明ナル以上ハ土地收用法上起業者ニ於テ之ヲ補償スヘキハ當然ノコトニシテ原判決ニ於テ之カ補償ノ要ナシトシタルハ失當ナリ

(九) (行裁 明治四十二年第一二〇號 同四十三年二月七日宣告)

(要旨) 土地ノ一部收用ニ因リ外國商人タル賃借人カ他所ニ移轉ヲ要スル爲メ從來ノ何番館ナル館名ヲ維持シ能ハサル場合ト雖館名ハ商號ト同視スヘキモノニ非サレハ之カ爲必スシモ商業上損失ヲ被リタルモノト認ムルヲ得ス

(判決理由) 原告ハ移轉ノ爲メ六十九番館ナル館名ヲ維持スル

能ハサルカ爲メ商業上損失ヲ受クヘキハ明瞭ナルニ此ノ點ニ關シ被告カ何等ノ補償ヲ裁決セサルハ違法ナリト云フモ前記ノ如ク收用殘地ハ必スシモ宅地トシテ使用シ難キモノト認メ難キヲ以テ必スシモ移轉ヲ要スルモノト認メ難キノミナラス假リニ移轉ヲ要スルモノトスルモ館名ハ商號ト同一視スヘキモノニアラスシテ移轉ノ爲メ必スシモ原告カ商業上損失ヲ被ルモノト認ムルニ由ナキヲ以テ此ノ點ニ關シテモ亦其主張ヲ採用スルヲ得サルモノトス

